

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

作成日：2025年9月4日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	国際関係			
講師幹事名	鈴木庸一	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子	
学 期	R7(2025)年 春夏 ・ 秋冬	開講時間	水曜 4～5時限	

【授業の目的・到達目標】

- 日本の対外関係における外務省の機能と職業外交官の活動を理解する。
- ロシアによるウクライナ侵攻、ガザの巡る紛争と中東における緊張の高まり、米国による一方的貿易政策の展開と言った事象が国際社会の在り方にどのような影響を与えているのかを展望する。
- 拡散される種々の情報の裏で実際に国家間にどのような力学が働いているのか、日本はそれに対しどのような働きかけを行い国益をまもろうとしているかを理解し、日本の外交活動を評価する目を養う。

【上記目的・目標達成方法】

- 外務省OB及び現役外務省員が講師としてそれぞれの実務経験の基づき日本の抱える主要外交課題について解説する。
- 講義と演習、ロールプレイを通じて講師と受講生さらには受講生同士のインターアクティブな質疑応答と議論を行い、それらを通じて外交の現場での考察力、判断力を養う機会を設ける。
- 期末レポートでは日本の国益と国際情勢を判断するための自分なりの視座・基準をどのようにゼミを通じて養ったかを問う。

【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
10/1 4, 5 限	鈴木 庸一	S50 (法)	元駐フランス大使 元外務省経済局長	(4 限) オリエンテーション：今日の日本外交の主要課題を概観し、その処理に当たる外交官の活動を見る。 (5 限) 日本外交の重要な柱である基本的価値（民主主義、基本的自由、人権、法治主義、自由で開放的な市場経済）を普及、擁護する具体的外交活動ではどのようなものかを考察する。
10/8 4, 5 限	坂本 紗恵子 河野 正憲	H24 (法) H28 (法)	外務省国際法局社会条約官室首席 事務官 外務省総合外交政策局安全保障政策課課長補佐	[4 限] 外交とグルーピング、拡大する人権：国際社会においては、様々な形の仲間作り＝グルーピングがあり、重層的な構造の中で国益を追求していることに紹介し、日本の立ち位置を考えていただければと思います。昨今の人権理事会の決議を例に、規範形成や理想と現実のバランスについても議論できればと思います。通訳から見た外交の舞台裏も一部ご紹介します。 [5限] 安全保障政策 日本の置かれた現下の安全保障環境において、現在、外務省ではどのような取組を進めているのか、同盟国・同志国との連携(日米豪印等)、防衛装備移転や共同開発・生産、サイバーセキュリティ等の新たな安全保障課題への対応といった観点から、具体例を中心にご紹介したいと思います。
10/15 4, 5 限	石原 さよ	R5 (法)	外務省北米局日米地位協定室 事務官	[[4 限] 日米地位協定と在日米軍に係る政策／諸課題：日本の安全は、自ら単独の力だけでは守りえず、近隣地域である極東の安全と密接に結びついています。講義内では、米軍の施設・区域を受け入れている地元自治体の視点も交えつつ、在日米軍に係る諸課題や外務省の取り組みに係る具体例をご紹介します。また、入省2年目の立場から見た外務省での仕事の「リアル」や、やりがいについてもご紹介します。

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

	神谷 政廣	H24 (経)	外務省アジア大洋州局中国・モンゴル課課長補佐・海関係担当班長	[5 限]日中関係 隣国で緊密な経済関係を持つ中国との関係は、日本にとって最も重要な関係の一つとなっております。一方、安全保障や経済面を含む多くの分野で急速に影響力を強める中国との関係においては、日本としても様々な懸念や課題があることも事実です。 ゼミの場合は、今後中国とどのように向き合っていけば良いのかという大きな問を含めて議論しつつ、本省や在外公館における実務の場での取組について講師の経験を紹介できればと思います。
10/22 4, 5 限	須永 和男	S54 (法)	元 ASEAN 大使 元カタル大使 防衛省防衛研究所特任上席研究官 (今年 3 月まで)	「4限」 地域国際機関としての ASEAN の概要を説明するとともに、ASEAN+3(日韓中)や東アジア首脳会議(EAS)などの、ASEAN を中心に構築された枠組みについて説明します。これにより、日本を取り巻く経済、安全保障の国際的枠組みについての理解が深まることを期待します。さらに、日本の対 ASEAN 政策の変遷についても説明します。 「5限」 日本のインド太平洋構想(FOIP)と中国の一带一路(BRI)へのASEANの対応や南シナ海問題を例にして、ASEAN をめぐり大国間でいかなる外交が展開されているかについて説明します。さらに、台頭するグローバル・サウスの中で ASEAN がどのような動きをしているかを説明した上、日本が今後とるべき ASEAN 外交について自由討議をしたいと考えています。
10/29 11/5 4, 5 限	角 茂樹	S51 (商)	元ウィーン代表部大使、元国連大使、元バーレーン大使、元ウクライナ大使、玉川大学、朝日大学、岩手大学客員教授、上智大学国際問題研究員	日本の安全保障: PKO 室長、防衛庁(当時)部員を務めた経験から、日本の安全保障に関して PKO 法、安保法制を武力の行使と武器の使用の観点から説明します。 ウクライナ情勢: 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規(Jus ad Belum)、人道法規(Jus in Bello)の観点からロシアのウクライナ 侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。 人権と人道法: 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かについて元ジュネーブ人権委員会(現人権理事会)の日本政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題につて、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。 いずれの授業において、外交官の役割についても触れたいと思います。

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

11/12 11/19 各 5 限のみ	齊藤 貢	S55 (社)	元オマーン大使 元イラン大使 関西学院大学客員教授	1 回目：講師は、中東の 7 ヶ国で勤務した中東の専門家で、恐らくイスラエルとイランの両国で勤務した唯一の日本の外交官です。この授業では、一昨年以來、中東情勢は不安定化の度合をましていますが、その現状、見通し、そして、どうして中東が不安定なのか、その原因となる第 1 次世界大戦後の戦後処理以來の歴史についても触れたいと思います。 第 2 回：講師は、タイの日本大使館で No. 2 を務めました。タイは日本の重要な産業集積地です。日本ではあまり意識されていない日本にとってのタイの重要性。日・タイ関係、そして、タイという国について講義します。タイの事を「微笑みの国」と言いますが、こその複雑な歴史、社会構造、政治情勢、王制の問題などと切っては理解出来ません。
11/26 及び 12/3 各 4 限のみ	川村 泰久	S56 (法)	元国連大使 前駐カナダ大使 元駐インド公使 元外務報道官 国連日本ユネスコ国内委員会委員	11/26 4 限(15:15-17:00) 講義「米国の外交と国連・国際秩序の再構築」 国連の機能不全に加えて米国トランプ政権の「自国第一主義」が国際秩序に与える影響に懸念が高まっています。国際秩序の大変革期にあって苦悩する国連が模索する新しい役割と日本の総合的な安全保障のあり方について講義します。トランプ第一次政権時の国連及び 30 数年前の過酷な対米貿易交渉に現場で関わって来た講師の経験を紹介しながら議論します。 12/3 4 限(15:15-17:00) 演習「国連緊急特別総会（台湾問題）でトランプ大統領と交渉する（仮題）」 講義で基礎知識を得た後は、テーマ（例：台湾事案の現実的な問題）を事前に与えますので、皆さん一人一人が日本・中国・ロシア・韓国・英国・カナダ、インドネシア他各国の大使及び米国代表（トランプ大統領）として国連緊急特別総会（仮想）に出席し、米国（トランプ大統領）に対して、国連及び同盟国が取るべき措置を提案・説得・そして総会決議へと導いて下さい。各国が抱える課題はあるも国際会議での協議を通じて国際社会として望ましい一つの結論に導いていく外交をバーチャルに体験して下さい。 *一橋大生のキャリア形成の観点から、入省後（社会に出て）間もない時期の経験がその後の外交官キャリアにどう関わっていくかについても時間が許す限り議論したいと思います。
12/10 5 限のみ	鈴木 庸一他	S50 (法)	元外務省経済局長 元フランス大使	①学外(外務省)でゼミを実施する予定。16:00～18:00(国立からのゼミ生の移動時間を考慮して設定)。 ②前半 1 時間では何故国際社会でマルチラテラリズムが後退しているかを外交上の課題と言う観点から考察する。その他今回のゼミを通じてゼミ生が特に議論したい問題があれば併せて取り上げる。

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

				③後半の1時間は開放的且つ自由な多角的貿易体制の維持強化に向けて日本の利益を守るため外交的に対応をとるべきか具体的ケースを取り上げて議論する。 ④ゼミ終了後如水会館で秋冬学期の講師陣及び若手外務省員を交えて懇談形式で議論を継続する。
--	--	--	--	--

【参考文献】

下記図書のうちそれぞれの講師が個別に推薦するものはその旨括弧内に記載してありますが、今回の国際関係ゼミの一連の講義は相互に関連しており、また特定の事象を複数の講義で様々な角度から取り上げるところがあるので、いずれの参考文献図書も読んでおくことはゼミ全体を通じて有益です。尚各講師が特定の講義に臨むに当たり特に読んでおいた方が良いと考える図書や部分がある場合にはゼミ学生幹事より改めて連絡することがあります。

- 外交青書及び防衛白書（主として総論部分）
- 日本国際問題研究所 戦略年次報告（日本国際問題研究所 HP より無料で見る事が出来る）
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power（要旨はネットで検索可能） 外交の本質を理解する上で有益
- 岡本行夫「現場主義を貫いた外交官」（朝日文庫） 現場感覚を持って外交官の問題意識を理解する上で有益
- 「危機の外交 岡本行夫自伝」（新潮社）
- 「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著 河出夢新書（角講師推薦）
- 五百旗頭真（編）『戦後日本外交史』第三版補訂版、有斐閣アルマ 2014 年（竹内講師（R7 春夏）推薦）
- 田中明彦『アジアの中の日本』（日本の＜現代＞2）2007 年 NTT 出版（同上）
- 国分良成他『日中関係史』、有斐閣アルマ、2013 年（同上）
- 齊藤貢、2022 年、「イランは脅威か—ホルムズ海峡の大国と日本外交」、岩波書店（齊藤講師推薦）
- 酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社（同上）
- 池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社（同上）
- 「国際連合」明石康著 岩波新書（川村講師推薦）
- 「ウクライナ戦争から見えてきた実現可能な安保理改革とは」 神余隆博 一般社団法人霞関会（kasumigasekikai.or.jp）2023 年 9 月霞関会 HP 掲載（同上）
- 「米中対立」佐橋亮著 中公新書（同上）
- 「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著（2022 年 日経 BP 社）（同上）
- 「The Room It Happened-A White House Memoir」John Bolton 著 2020 年, Simon & Shuster 社（同上）

【受講生に対するメッセージ、希望】

- 本ゼミを通じて国際情勢を理解する目を養うと同時に外交官と言う職業はどのようなものについての理解を持ってもらいたいと思います。
- 学生幹事を通じて講師より事前に課題が出される場合は準備してゼミに臨んでください。
- 基本は各講義とも前半は基本的知識についての講義、後半はラウンドテーブル形式の議論と言う構成になります。議論への積極的な参加を期待します。
- 各講義について自分なりの疑問点、特に関心のある問題について議論したいことを予め整理しておくの良いと思います。ゼミ生からの質問や問題提起があればそれを受けて講義を進めます。基本的な質問、初歩的な質問を歓迎します。
- 現役外務省員講師の講義日程については外交日程等の都合により変更の可能性があります。
- ある程度の数の希望者がいれば締めくくりに総括講義に換えて講師一同と学生の間での軽食を挟んでの気軽な懇親の機会をゼミの終盤に如水会館で設けます。

【過去の受講生の声】

- 外交に関する知識はほとんどない状態でのスタートであったが、基本からわかりやすく説明していただけたのでとてもよく理解することができた。（社会 3）
- 実践的に国連人権理事会の交渉シミュレーションを行うことができて貴重な体験でした。国連の会議の場において主権と各国問題の解決をどのように両立させるのか、自国の思惑を隠しながらどのように真つ当な意見を述べていくのかを考えることが非常に面白くもあり、考えさせられるものでした。（社会 2）
- 外務省で働くことも視野に入れている中で、組織の実態を包み隠さず教えていただき、大変ありがたかったです。自分が将来外務省で働いている姿が少し想像できるようになりました。（経済 2）

個別ゼミ概要（WEB掲示用）

- 講義中は、インド太平洋の国家のそれぞれの思惑を説明していただき、アフタークラスでは、インドやカナダについて大使ならではの雑学や、国家公務員としての職務について幅広い質問に答えていただき、大変勉強になった。（法2）
- 国際大使の経験を踏まえて国連勤務での生活はどのようなものなのかというところから国連がどのような機能を果たしているのかまで普段では聞けない貴重な話だった。（社会2）
- 学生が大使の役割を演じ、朝鮮半情勢と気候変動について議論したが、自分の討論力のなさを痛感した。これまで議論の経験が少ないこともあり、他人の意見に対して指摘することが非常に難しかった。また議長として各国大使の意見を集約し、短時間で共同声明を作ると言う経験も、要約力と頭の回転が求められて非常に難しかった。しかしどれも初めての経験ばかりで、国家公務員志望の私にとっては非常に有意義な時間となった。（法2）
- 国際会議をそれぞれの国の大使になりきってシミュレーションをするという貴重な経験をすることができた。「話し合いで解決しよう」が美德とされているし、その必要性は十分に理解しているが、実際そこでの葛藤、混乱は脳裡に持ってなかった。「合意できる」ことは希少で、価値があることなのだと気づかされた。（社会2）
- 日本外交の立ち位置、中国、ロシア、朝鮮、東南アジアの国々との歴史的関係について触れた。日本が戦後どのようにして外交を始めて他国と関係性を築いていったのかをみた。特にアジアとは何なのか、日本の歴史認識について考えさせられた。（社会2）
- アメリカの中東政策を理解する上で、単に外交的な戦略や二国間の関係を見るだけでなく、米国内の宗教的背景や選挙戦略といった複雑な要因を把握する重要性を実感し、今後ニュースを捉える際も、こうした背景を意識することで、アメリカの中東政策の動向がより鮮明に見えてくると感じた。（商4）
- ユダヤ教やキリスト教、イスラム教に昔から興味があり、中東情勢のことも気になってはいたが、あまりに複雑で、イスラエルを中心にどこが紛争状態なのか分からず混乱していたので、とてもタイムリーでためになるお話だった。（経済2）
- 今回特に興味深く感じたのは、ウクライナ侵攻が単なる領土紛争ではなく、宗教的対立や歴史的背景とも深く結びついている点だ。この問題をきちんと理解するためには、軍事や外交のみならず、地域のアイデンティティや宗教的価値観を含めた多面的な理解が必要不可欠であることを実感し、今回の授業を通じてその一端に触れることができたのは個人的に大きな収穫であった。（商4）
- 外交官としての動き方（マナー）のお話がとても興味深かった。日本ではなくワールドスタンダードのマナーに従って働かないといけないというのは案外大変なものなのだと分かった。まだ国家公務員を目指すかも分かっていないが、とても有益な情報を得られて大変よかった。（経済2）
- 初めて大学の外でゼミが行われ、外務省の大会議場をお借りした。ここが国際会議にも使用される場所なのかと圧倒される思いだった。アフタークラスで如水会館に伺い、OBの方々に改めてお話を聞く機会を設けていただいた。忌憚のないアドバイスをいただけてとても参考になった。（経済2）

以上